

平成25年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 佐賀市上下水道局		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水浄化センター 所長 山口 徳 雄 電話 0952-22-0181 FAX 28-4562 E-Mail:tkyamaguchi@city.saga.lg.jp	
代表者氏名 上下水道局長 金丸 正之			
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】	
部門名 報道部門(テレビ報道部門)	事例名 佐賀市・地域に密着した循環型下水道の実現		
事例の概要(適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)			
下水道広報関係 下水浄化センター【テレビ放送】			
1. 9月 4日 STSテレビ 9分間 事業内容紹介 2. 10月 2日 STSテレビ 分間 大臣賞受賞報告 3. 10月 2日 NHKテレビ 分間 大臣賞受賞報告 4. 10月24日 STSテレビ 2分間 城西保育園児による芋ほり 5. 10月24日 NHKテレビ 1分間 城西保育園児による芋ほり 6. 11月 6日 ぶんぶんケーブルテレビ 2分間 信光幼稚園児による芋ほり(10月25日実施したもの) 7. 11月 8日 NHKテレビ 4分間 事業内容紹介 8. 11月 9日 NHKテレビ 九州管内 4分間 (前日と同じ内容で、若干違う)			
(参考)【新聞報道】 地元紙をはじめ 多数【雑誌】 エネルギーフォーラム、ヤンマーエネルギーシステム 月刊下水道、水道公論 など 多数			
エントリー事例の特徴(下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など)			
ポイント			
①市民交流が生んだマスコミとの連携 ②下水道職員の日頃からの外部との交流 ③「国土交通大臣賞」を契機とする情報発信機会の創出 ④テレビ報道による連携の広がり ⑤下水道に関する報道を通じて、下水道への理解を深め、接続率を向上させ下水道経営を安定化させる。			
海苔養殖・農業利用に適した処理水の有効利用、DBO事業で生産した下水汚泥堆肥の有効利用、農・漁業従事者との連携、高効率の汚泥消化ガス発電の場内利用の取り組み等、「地域に喜ばれる下水道施設」を目指す取り組みを推進。			
これらの取り組みが評価され、平成24年度国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」を受賞した。			
従来より、市民協働から広がった人との繋がり、下水道関係職員が日ごろから積極的に地元マスコミとの繋がりを作っていたことが功を奏し、取り組みに関するマスコミ露出が増加。マスコミとの緊密な関係性が構築されることで、報道内容についても的確な報道がなされ、市民への情報発信の役割を十分に果たしている。			
さらに国土交通大臣賞をきっかけに取材が殺到するようになったことを活かし、九州及び全国に取組みが長時間発信されるようになった。これにより、全国、さらには世界の下水道・漁業・農業・エネルギー関係者が視察に訪れるようになり、情報発信の相乗効果が生まれている。			
我々が採用する技術・取り組みが、国内外に水平展開され、より広く地域・社会に貢献していくため、そして、佐賀市内の下水道利用者に対して下水道事業への認識を深めてもらうため、今後も積極的に「マスコミ」の活用を図っていきたいと考えている。			